

2016年10月12日

2015年度のスチール缶リサイクル率は、92.9%

- 90%以上の達成は5年連続となります。
- 経済産業省・産業構造審議会のガイドライン「90%以上維持」の目標を達成しています。

● 資源循環システムが確立している、スチール缶のリサイクル

- 飲料用スチール缶の分別・再資源化が社会に浸透しており、95%以上の自治体で分別収集の対象になっています。
- スチール缶スクラップは、ティンフリー・スチール化の進展等により高品質のスクラップとして高い評価を受け、全国の鉄鋼メーカーで安定的に使用されています。
- 国内で発生するスチール缶スクラップは、国内で製鉄原料として再資源化されており、輸出に回っているものは基本的にありません。

● 高付加価値化・高品質化が進展している、スチール缶のリサイクル

- スチール缶の一部が、全国の鉄スクラップ取扱事業者において高付加価値化のためシュレッダー処理され、スチール缶スクラップ(Cプレス・Cシュレッダー)以外の規格で鉄鋼メーカーに受け入れられていることから、2009年度より、この一部を調査して再資源化重量に加えています。

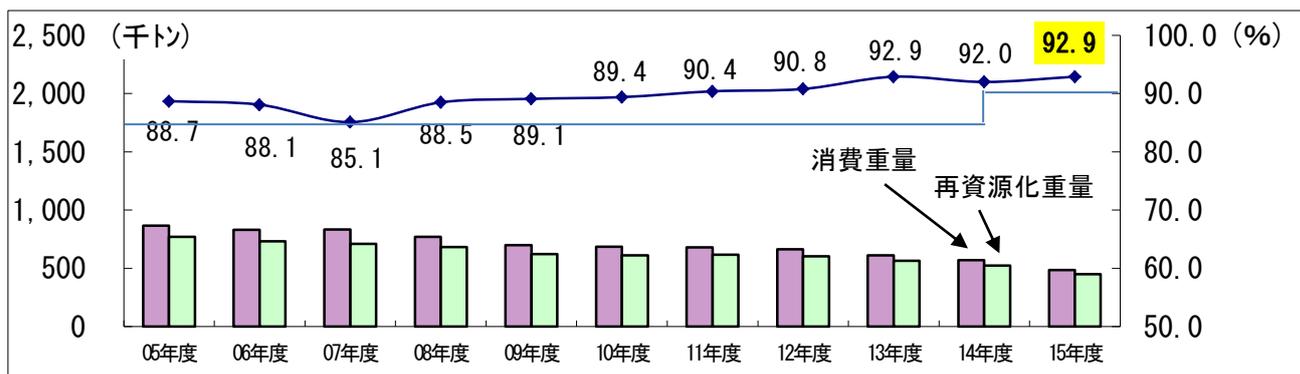
● 世界の粗鋼生産は高い水準を維持、鉄スクラップも貴重な原料

- 2015年の世界の粗鋼生産は16億2千万トン。過去最高であった前年の16億7千万トンは下回りましたが、高い水準を維持しています。
- 日本の粗鋼生産量も年間1億トンを維持しており(2015年は1億500万トン)、鉄スクラップは国内で自給できる貴重な原料として需要を維持しています。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 細田
電話: 03-5550-9431 FAX: 03-5550-9435
E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp

スチール缶消費重量 485,785 トンに対して再資源化重量 451,354 トンでした。



| | 2005 年度 | 2006 年度 | 2007 年度 | 2008 年度 | 2009 年度 | 2010 年度 | 2011 年度 | 2012 年度 | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 消費重量(千トン) | 868 | 832 | 834 | 772 | 699 | 685 | 682 | 664 | 611 | 571 | 486 |
| 再資源化重量(千トン) | 770 | 732 | 710 | 683 | 623 | 612 | 617 | 603 | 567 | 525 | 451 |
| リサイクル率(%) | 88.7 | 88.1 | 85.1 | 88.5 | 89.1 | 89.4 | 90.4 | 90.8 | 92.9 | 92.0 | 92.9 |

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで3ヶ月かかると見做して、消費重量は 2015 年 1～12 月、回収・再資源化重量は 2015 年 4 月～2016 年 3 月のデータにより算出しました。

$$\frac{\text{回収・再資源化重量}}{\text{消費重量}} = 92.9\%$$

$$\text{消費重量} = \text{出荷量} - \text{缶詰輸出量} + \text{缶詰輸入量} + \text{空缶輸入量}$$

$$\text{回収・再資源化重量} = \text{鉄鋼メーカー等購入量} - (\text{アルミ蓋重量} + \text{異物})$$

全国の電炉メーカー・高炉メーカー・鋳物メーカー・ペレットメーカー等にスチール缶スクラップ(Cプレス及びCシュレッダー)利用量に関するアンケート調査を実施、その回答を集計。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者において、スチール缶スクラップがシュレッダー処理後、Cシュレッダー以外の規格で再資源化し、製鋼原料として売却した量を集計(調査により把握できた量のみ計上)。

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及び水分等の異物を除いて算出。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 細田
 電話:03-5550-9431 FAX:03-5550-9435
 E-mail アドレス:recycle@steelcan.jp